

社学同の主張は、二月十日付の全共闘の情宣ビラと一致する。そこでは、「入試がなければ立命はつづける」という理事会の本音や、マスコプロを大学の発展と「錯覚」して少しもふしぎにおもわない理事会の経営者の手腕の下におかれてきた教員と学生の関係を転換したければならない。我々は立命を学府としているのではないのか？

いつものように企業に転落したのか、と述べている。

もちろん、この主張は「入試実施—体制維持」を唱える民青の発想をも批判するものである。

二月一日（月） 警備委員会による大学批判審議開始。井上清、岡田行、西先生出席。同日、体育会は緊張感を醸成、入試実施の立場から入試休校を提議、全共闘・学友会、理事会に対し三

日間の休校をもとめる。この入試休校は、ふしぎな安堵感を広げ

学友の間に与え、体育会は今も、極めて重要な役割を果たす。入試

休校ということはいきなり、文学部の教員が団交の席で「ベト

コンもベト休校するではないか」という発言をばくに至る。

二月一日（火） 校友会緊急集会が開かれる。武蔵、西村両学

内理事出席、代々木系卒業生の動議、可決されず。

二月二日（水） 全学総長、理事会団交はものわかれ。（警備

二月二三日（木） 理事会、入試に関する説明会を清心館10号教

室で行なう。池田法学部長、藤井産業社会学部長が出席。

同日、中川会館バリエード前で、入試阻止集会。入試を明日にひ

かえて全共闘は、混乱を深めた。入試阻止、無視の入りみだれ、

闘争的行動（入試強行反対、中止要求）が全人民的政治闘争（入

試実力阻止）か。全共闘の闘争エネルギーの空転と武蔵理事会の日

列を混乱させる（それを法廷闘争のみに正しく指摘）もちろん、理

事会の日利見も、全共闘運動がおしだしたものだ。全共闘を交渉相

手にえらんだのは、なりふりかまわぬ武蔵の右左左があらたこと

はいえ、なによりも、全共闘運動の崩壊が、全大学人の自治

による四者協議—代表交渉、立命民主主義の機能を停止させたこと

にある。理事会、執行部のメンバーの解任は、代理、代行の乱造で

おこなえても、目的的全員加盟自治会の安定した制度にのっとる

代表交渉間接民主主義制立命方式は、全共闘の全学的ヘゲモニーの

確立によって破産せざるをえない。十二日の理事会、全共闘団交は、

その事実を隠蔽した。事実の経過をひたかくしに、武蔵氏が、代

しかしながら、武蔵、池田、藤井の諸先生は、依然として解体す

るべきでないと断言しておられる。他の理事の発言をふまえて、武

蔵先生におうかがいしたい。

武蔵 今の全学協も学振協も五者会談も十分にその機能を果たせな

くなくなっている。だから、解体して根本的に新しい制度をみん

なの力でつくりあげるよう大胆に提起いたします。そのために解

体いたします。（藤井がしくなる、「解体の内容を言え」等発言が

多い）

佐野 全学協、学振協については解体するということを確認でき

のですね。

武蔵 現在では、全学協、学振協、五者会談は、その機能を果た

なくなっている。解体して新しいものをつくることを大胆

提案する。（発言多数、騒然）

池田 現在の立命館大学の体制には問題がある。点とさきほど述

べた、現在の体制は、現実的に機能果たせなくなっている。そ

問題点を、どのような方向で、どのような道義の上に立って進

めるのか。この二点をふまえて現在の体制をつくりかえさねば

ならぬ。

佐野 現在の全学協、学振協については、解体すること

確認できますか、は。きりと、

池田（うながされて）現在の体制を……解体して新しい制度を

つくりあげることを大胆に提起する。

佐野 藤井先生おねがいします。

藤井 私ひとり、反動の最後の生き残りの如くなりましたが……

組織や体制は、何のためにあるか。それは学内における……

△解体するかどうかにについて言えV 民主主義の問題は、すぐ

て運動の開始である。今までの学振協、全学協が機能マヒして

た。十七日の全学協の決議は無効である。これを認めてい

反省している。あの学振協の決議は無効であることを認めてい

……運動を言う全学協、学振協はのりこえられべきもので